

教員を対象としたいじめ予防・対応に関する研修の効果の検討

○飯田順子 (筑波大学)
川崎知己 (千葉商科大学)
遠藤寛子 (宮城学院女子大学)

松山康成 (寝屋川市立西小学校)
青山郁子 (都留文科大学)
杉本希映 (目白大学)

キーワード：いじめ, 教員研修, 効果検討

問題と目的

学校では深刻ないじめの発生が続いている。2013 年にいじめ防止対策推進法が公布され、いじめの防止及びいじめの対応における、学校の役割、教員の役割が強調されている。いじめの予防や対応を学校で積極的に行っていくためには、教員のいじめに対応する自信（いじめ対応効力感）を高めることが欠かせない。海外では、教員のいじめ対応効力感に関する研究がいくつか見られ (Nicolaidis et al., 2002; Sela-Shayovitz, 2009), 測定する尺度も作成されている。本研究では、このいじめ対応効力感を高めるための教員研修を行い、その効果を検討することを目的とする。

方 法

調査協力者 第 1 著者が所属する大学の公開講座で 6 時間の研修を実施した。参加者は 15 名、属性は教員 13 名、学校事務員 1 名、大学院生 1 名であった (男性 6 名、女性 8 名、無記名 1 名)。

実施時期 2018 年 8 月

プログラムの内容 各 90 分で実施した。

1. いじめに関する基本的知識
2. いじめへの学校全体の対応 (管理職の視点)
3. いじめへの個別の対応 (ピアメディエーション)
4. いじめへの学級・学校の対応 (PBIS)

調査内容 事前アンケートでは 1～3, 事後は 2, 3 を実施した。アンケートは無記名で実施した。

1. いじめに関する学習機会 5 項目。
2. いじめ予防・対応に関連する知識 攻撃の分類、攻撃の機能、ネットいじめ、援助要請、ピアメディエーション、PBIS に関する知識を尋ねる項目を独自に作成し、5 件法で尋ねた。
3. いじめ対応効力感を測定する項目 前述の Nicolaidis et al. (2002) が作成した尺度を著者に許可をとりバックトランスレーションを行い、実施した。10 項目 5 件法。

結 果

1. いじめの研修機会について

研修の機会については、「学校で配られる配布資料」13 名、「教職課程中に学習した」1 名、「教員になってから校内研修及び教育委員会主催の研修会で学習

した」11 名、「他機関の研修会等に参加した」5 名、「その他」5 名であった。

2. いじめに関する知識への効果

いじめに関する知識の事前事後得点の t 検定の結果、「ネットいじめ」に関する知識を除いて、いずれも有意な得点の上昇が見られた ($t=-3.11 \sim -7.87$, $p < .001$) (Table 1)。

3. いじめ対応効力感への効果

いじめ対応効力感の t 検定の結果を Table 1 に示す。いずれも有意な得点の上昇が見られた ($t=-2.43 \sim -6.96$, $p < .05$) が、効果量を見ると被害児童生徒のサポートと傍観者への働きかけは.50～.60 台と他よりも低い傾向が見られた。

Table 1 研修前後における項目ごとの平均値、標準偏差および t 検定の結果

	事前		事後		t値	効果量
	平均	SD	平均	SD		
攻撃分類	3.27	1.03	4.53	0.52	-3.83 **	.72
攻撃機能	2.87	1.25	4.40	0.51	-4.38 **	.76
ネットいじめ	3.67	1.05	4.00	0.66	-1.32	.33
援助要請	3.33	0.82	4.27	0.88	-3.11 **	.64
ピアメディエーション	1.93	1.21	4.50	0.52	-7.87 ***	.91
PBIS	2.27	1.34	4.67	0.49	-6.39 ***	.86
1. 被害児童生徒のサポート	3.33	0.82	3.87	0.35	-2.48 *	.55
2. 傍観者の責任を話す	3.33	0.72	3.80	0.41	-2.82 *	.60
3. 傍観者の積極的介入を促す	3.33	0.82	3.80	0.41	-2.43 *	.54
4. 被害児童生徒との話し合い	2.93	0.88	3.67	0.49	-4.04 **	.73
5. 被害児童生徒の保護者との取り組み	3.07	0.70	3.87	0.52	-4.58 ***	.77
6. 加害児童生徒の保護者との取り組み	2.73	0.80	3.80	0.56	-6.96 ***	.88
7. 加害児童生徒との話し合い	3.00	0.85	3.87	0.52	-4.03 **	.73
8. 加害児童生徒への介入	2.80	0.78	3.60	0.51	-3.60 **	.69
9. ソーシャルメディア上のいじめへの対応	2.47	0.83	3.07	0.80	-3.15 **	.64
10. ネットいじめの被害者へのサポート	2.60	0.83	3.27	0.59	-3.57 **	.69
効力感 1～10合計	29.86	6.02	36.79	3.66	-5.44 ***	.83

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

考 察

いじめ知識・いじめ対応効力感の得点の変化から、今回行った研修が教員のいじめ知識・いじめ対応効力感の上昇に寄与したことが示された。教員は第一線でいじめの予防・対応に関わることが求められる一方で、研修の機会は学校での配布資料や校内研修・教育委員会主催の研修に限られている。教員のいじめに関する知識・いじめ対応効力感を高める研修の普及が今後の課題である。

付 記

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C, 課題番号 17K04341) の助成を受けている。